

平成 22 年度 事業概要及び報告

1 はじめに

当財団は、設立趣旨ならびに寄付行為に基づき、首里城に関する展示資料の収集等を目的とした首里城基金が設置され、基金の造成、管理及び運用の諸事業を実施している他、首里城に関する調査研究、普及啓発等の事業を行っている。詳細については、下記のとおりである。

2 財団の事業概要 (※一部抜粋)

◆首里城に関する調査研究事業

- (1) 御供飯の調査研究 (御供飯の復元製作)
- (2) 正殿漆塗装関連資料の調査研究
- (3) 在外首里城関連文化財の調査研究
- (4) 琉球楽器楽曲の調査研究
- (5) 萬野裕昭コレクションに関する調査研究
- (6) 首里城正殿三御飾等道具の調査研究
(道具類の製作及び往時の製作技法の復元)

◆首里城に関する普及啓発事業

- (1) 琉球王国関連資料の展示
- (2) 図録や小冊子等印刷物の発刊
- (3) 職場体験、研修生等の受け入れ
- (4) 首里城見学会及び体験学習会の実施
- (5) 地元団体との連携事業の実施

◆その他の事業

- (1) 共同研究事業の実施 (大学等)

3 平成 22 年度事業報告

1) 首里城に関する調査研究事業

(1) 首里城の歴史、伝統美術品等に関する調査研究

琉球漆器「御供飯」の複製品に関する調査及び製作では、本体中塗り・内容品中塗り・内容品加飾の試作を行った。また、ヨーロッパ地域の琉球関係文化財の所在情報を蓄積した研究者のノート等をカルテ化する作業を実施した。

御座楽衣裳調査では、紅型 2 領、紅型帯 1 点、織物資料 2 件に使用されていた植物染料や鉱物顔料について蛍光 X 線非破壊分析装置等の機器を用いて調査を行った。復元した琉球楽器の活用を図るため、県立沖縄芸術大学と連携し復曲する曲目を選定した。

萬野裕昭コレクションに関する調査研究では、報告書刊行に向けて解説原稿執筆者と内容に関する調整会議を行った。

かつて首里城正殿において正月儀式で使われていた「三御飾道具及び御床飾道具」の復元製作を実施した。漆芸品 2 点、金工品 3 点が完成し、平成 22 年度末時点で、41 点中 20 点の復元が完了した。

(2) 首里城正殿漆塗装材等に関する調査研究

正殿等復元建造物の維持管理技術に関する調査研究では、漆等塗装材として使用する為、採取した沖縄本島内の赤土の焼成実験等を行い、県内から安定的に赤色顔料の調達する基礎情報の収集を行った。また塗装面にカビ等の不具合が出ない安定的な塗料開発を行う為、桐油に一部樹脂を混合した塗料の評価実験を行った。

(3) 共同研究

首里城に関する調査として、浦添市美術館と共同研究を行った。

①「萬野コレクション資料解析調査」(浦添市美術館)

2) 首里城に関する普及啓発事業

- (1) 沖縄の歴史文化に関する知識の普及啓発を推進するため、県内の小・中学生の歴史文化学習に対し助成を行った。
- (2) 首里城公園の支援団体である「首里城公園友の会」が主催する文化講演会、イヌマキ育樹等の事業実施に対して助成を行った。
- (3) 那覇市の協力を得て琉球国王であった尚家に伝わる古文書類(国宝：尚家文書)の複製本の製作を行った。
- (4) 南殿二階特別展示室において、首里城や琉球王朝の歴史、文化、美術工芸等を紹介する「幕末の琉球」、「うるしの王国 琉球」と題した企画展を実施した。特に「うるしの王国 琉球」は、4回連続シリーズ企画展とし、リピーター対策として開催した。